

NPO 法人文化財保存工学研究室

代表者	土田 充義
所在地	〒819-0042 福岡市西区壱岐団地 124-2
設立年月日	2005年10月25日
URL	http://ameblo.jp/iglesia-de-xavier/

【設立趣旨】

文化財建造物及び歴史的町並の調査・修復・保存・再生・活用を目的として、NPO 法人として設立されました。

伝統的建造物の修復、町並みの調査をしてきましたが、現在は、主に鹿児島カテドラル・ザビエル記念旧聖堂の復元を目指して活動をしています。

旧聖堂は、空襲で外壁だけを残して焼失した石造聖堂（1908年建設）と共存していました。石造聖堂の方は1961年に撤去され、旧聖堂の方はキリスト教宣教師フランシスコ・ザビエルの渡来から400年にあたる1949年に木造聖堂として再建されました。その特徴は、天井を高くするために斜めに梁（はり）をいれるなど、当時の高い建築技術が駆使されていることです。正面のアーチは美しく、多くの市民や観光客に親しまれました。しかし、フランシスコ・ザビエルの日本渡来450年を記念した新しい聖堂の建設にともない1998年にすべてが解体され旧聖堂の保存部材を福岡県宗像市の地でよみがえらせるべく活動しています。

【沿革】

NPO 法人設立以前：薩摩藩武家住宅や山村住居の調査をし、その結果、鹿児島県では出水麓地区、入来麓地区が伝統的建造物群保存地区に選定され、椎葉村では椎葉十根川地区が選定された。鹿児島県立博物館野外展示場に奄美の高倉があった。それが子供の火遊びで燃え、焼けた部材を修復して鹿児島大学構内に再生した。これらの事を手がけてきた。1997年10月ザビエル聖堂の調査をし、建築学的に価値があるため、翌年「ザビエル聖堂を文化財として再生させる会」を設立して保存に動き出した。2003年4月福岡黙想の家に総ての部材運び、修復を開始した。

NPO 法人設立後：2007年3月「ザビエル聖堂を文化財として再生させる会」から保存部材を譲り受け、同年4月に起工式。この時に聖堂再生プロジェクトを立ち上げ、2009年6月13日に上棟式をおこなった。

【活動目的】

1. 歴史的建造物、ザビエル聖堂を再生させる。そのために、聖堂再生プロジェクトを立ち上げた。
2. ボランティアの方々の力を結集する。人間はそれぞれ特技に恵まれている。それを聖堂再生に向け、と同時にお互いの意見を尊重して交換会を行う。
3. ものを大切に作る心を育む。部材の修復そのこと自体に意味があるが、それとは別に、古い部材を補修することで、まだ使える事ことを学び、再評価することが出来る。

【活動目的】

●修復工事

2007年4月15日に聖堂再生プロジェクト（チーム1労働・技術、チーム2企画・広報、チーム3資金・工事、チーム4精神的支援）を立ち上げ、建設過程を大切にしながら4年間のスケジュールを組み、現在、丁度折り返し点です。



トラスを組む大工二人とボランティア二人



ボランティアの方々とのお話し合い

大工さん二人と協力して保存部材の修復・骨組みの立ち上げ工事を行っている。ボランティアの方々は窓枠を修理したり、野地板を張ったり、瓦の分類をしている。聖堂の完成は2011年の4月7日（ザビエルの誕生日）を目指しています。

2006年12月3日 敷地祝別式
2007年4月15日 起工式・聖堂再生プロジェクト発足

2007年7月1日 第一期安全祈願式
2007年9月15日 定礎式
2008年4月6日 立柱式(a)
2008年12月3日 第二次安全祈願式
2009年6月13日 上棟式
2009年7月18日 フライングバツトレス完成式
2009年12月3日 第三期安全祈願式
2011年4月7日 完成予定



外観

現在までの歩み

●『聖堂再生』の刊行

明治期の初代石造聖堂から現在までの写真や、1997年の解体から、2003年に宗像市に部材運び、保存修理するまでの9年間の歩みなどを記録した冊子を刊行しました（2007年3月19日発行、定価1,000円（税別）、編集、松山ちあき、NPO 法人文化財保存工学研究室発行、111頁）。

●聖堂再生プロジェクトの発足

2007年4月15日の起工式の日には4チーム構成で発足。チーム1：労働・技術チーム、チーム2：企画・広報、チーム3：資金・工事チーム、チーム4：精神的支援チーム、どんな立場の方でもどなたでも参加できるプロジェクトです。

●公開講座

宗像市、教育委員会の後援をいただきながら、「めざせ建造物の再生」をテーマに公開講座を開催している。2008年11月29日（土）には、第15回目の講座を開き、聖堂再生の修復工事担当大工正岡裕二さんを講師に迎えて、「木は呼吸し生きている」と題して、実技をしながら、木の美しさは神秘的と語っていただきました。

【活動上の課題と今後の展望】

<活動上の課題>

1. モルタル洗い出しができる左官さんが近くにいない。聖堂の外観に多くモルタル洗い出しの手法が用いられている。歴史的建造物であるために復元するにはなかなか難しいが、解体時の見本があるので、それを参考に、工夫を重ねて進めたい。
2. ボランティアの方々の労働奉仕は大きな力になっている。と同時に、本当に生きがいになっているかどうか考慮していかなければならない課題である。

<今後の展望>

聖堂再生工事は建設過程を大切にしているために、能率とか効率とか頑張るとかよりも、非能率かもしれない、効率が悪いかもしれないが、あきらめずに着実に、楽しみながら活動が続ける事が大切と考えている。



2011年4月7日完成予想図



立柱式



上棟式



内部



正面